

県立高等学校再編の前期実施計画

平成20年12月

富山県教育委員会

目 次

I	5件の再編統合	
1	趣旨	1
2	対象校	1
3	実施年度	1
4	実施手順	2
5	今後の検討の進め方	2
6	県立高校として使用しなくなる校舎等の活用	2
	<参考資料①> 前期計画における再編統合	3
II	新高校の概要	
1	海洋高校と滑川高校による新高校	4
2	大沢野工業高校と富山工業高校による新高校	5
3	二上工業高校と高岡工芸高校による新高校	6
4	有磯高校と氷見高校による新高校	8
5	井波高校と福野高校による新高校	9
	<参考資料②> 再編統合後の新高校の概要	11
	<参考資料③> これまでの検討経緯	12

県立高等学校再編の前期実施計画

県立高等学校再編の前期実施計画（平成 24 年度までの間）については、この 3 月に公表した「前期計画における再編統合の基本的な枠組みについて」を踏まえ、県教育委員会事務局内に設置したプロジェクトチームにおいて、新高校の学科構成や教育内容、魅力ある学校づくりのための仕組み、設置場所、学校規模等について、具体的に検討してきた。

8 月には、それまでの検討結果を取りまとめた「前期計画における再編統合後の新高校の骨格(素案)について」を示した。その後、骨格(素案)についての意見募集や地域説明会を実施して、地域や学校関係者をはじめ、広く県民の意見を聞くとともに、さらに検討を進め、「前期実施計画」として、次のとおりまとめた。

I 5 件の再編統合

1 趣旨

県立高校の再編は、全ての学校について、一定の学校規模を確保するとともに、新しいタイプの高校を設置するなど、学習活動や学校行事、部活動の面で、生徒相互に切磋琢磨することができる学習環境をつくることを目的とする。

前期計画の 5 件の再編統合については、対象となる学校の歴史と伝統、及び、これまで果たしてきた役割や地域のニーズ等を踏まえ、また、両校の特徴ある学科を生かす方向で、新高校の学科構成や教育内容等の骨格を決定したものであり、新高校で学ぶ一人一人の生徒たちが、これからの社会で求められる能力等を確実に身に付け、将来を担うたくましい人材として育っていくための県立高校教育の一層の充実という観点から実施するものである。

2 対象校

現在の全日制県立高校 43 校のうち 10 校を再編し、新高校 5 校を設置する。

再編の組み合わせは、「海洋高校と滑川高校」、「大沢野工業高校と富山工業高校」、「二上工業高校と高岡工芸高校」、「有磯高校と氷見高校」、「井波高校と福野高校」の 5 件とする。

なお、大沢野工業高校と富山工業高校による新高校については、富山西高校から土木科を移設するものとする。

3 実施年度

5 件の再編統合については、全て平成 22 年度に、新高校を開設するものとし、平成 22 年 4 月に、新入生の受け入れができるようにする。

4 実施手順

再編統合にあたっては、対象校の募集を停止し、同時に、新高校の募集を行い、新入生の受け入れを開始するという手順を進めるものとする。

なお、対象校の在校生については、入学時における教育課程の履修を原則とすることから、卒業まで、入学した学校の校舎等において学習する。

この間、対象校においては、在校生の学習希望や進路希望等に適切に対応できるよう、対象校が合同で教育活動を実施するなど、学校や生徒・保護者の意向、及び地理的条件や教育内容、指導体制、施設・設備の状況等に応じた適切な措置を講じるものとする。

5 今後の検討の進め方

今後、平成 22 年度に、新入生を受け入れることができるよう、新高校の教育目標やカリキュラム、入学者選抜方法、学校の名称や校歌、校章など、より具体的な検討を進めることとする。

なお、新高校における施設・設備等に関しては、各学校の学科構成や教育内容等を踏まえ、学習環境の充実と一体感の醸成を図り、新高校が魅力あるものとなるよう、必要な施設・設備の整備等について、段階的・計画的に検討を進めるものとする。

6 県立高校として使用しなくなる校舎等の活用

県立高校として使用しなくなる校舎等の活用については、今後、地元自治体など関係者の意見等を聞きながら検討を進めることとする。

この中で、県立高校として使用しなくなる大沢野工業高校と二上工業高校については、それぞれの校舎等の一部を活用し、軽度知的障害のある生徒の就労支援を目的とした高等養護学校を設置することについて、具体的な検討を進めることとする。



〈参考資料①〉 前期計画における再編統合

通学区域 (郡市)		現状 (平成20年度)	再編後
新 川	下新川郡	泊 (普)	泊
		入善 (普・農)	入善
	黒部市	桜井 (普・土・家)	桜井
		魚津市	魚津 (普・理)
	滑川市	魚津工業 (工)	魚津工業
		滑川 (普・薬・商)	普通科と複数の職業系専門学科を設置した高校
	海洋 (水)		
中新川郡	上市 (総)	上市	
	雄山 (普・家)	雄山	
富 山	富山市	中央農業 (農)	中央農業
		八尾 (普)	八尾
		富山西 (普・土)	富山西
		富山 (普・理)	富山
		富山中部 (普・理)	富山中部
		富山北部 (普・薬・商)	富山北部
		富山工業 (工)	ものづくりの中核となる総合的な工業科高校
		大沢野工業 (工)	
		富山商業 (商)	富山商業
		富山いずみ (総・看)	富山いずみ
		富山東 (普)	富山東
		富山南 (普)	富山南
		水橋 (普)	水橋
呉羽 (普)	呉羽		
高 岡	射水市	小杉 (総)	小杉
		大門 (普)	大門
		新湊 (普・商)	新湊
	高岡市	高岡 (普・理)	高岡
		高岡西 (普)	高岡西
		高岡工業 (工)	ものづくりの中核となる総合的な工業科高校
		二上工業 (工)	
	高岡商業 (商)	高岡商業	
	氷見市	伏木 (国)	伏木
		高岡南 (普)	高岡南
福岡 (普)		福岡	
氷見市	氷見 (普・商)	普通科と複数の職業系専門学科を設置した高校	
	有磯 (農・水・家)		
砺 波	砺波市	砺波 (普・理)	砺波
		砺波工業 (工)	砺波工業
	南砺市	南砺総合高校福野 (普・農)	普通科と複数の職業系専門学科を設置した高校
		南砺総合高校井波 (普・福)	
		南砺総合高校福光 (普・国)	
		南砺総合高校平 (普)	
	小矢部市	石動 (普・商)	南砺総合高校福光
			南砺総合高校平
	石動		

※ 設置学科の略称について

普 … 普通科	理 … 理数科	国 … 国際科	農 … 農業科	水 … 水産科
工 … 工業科	土 … 土木科	薬 … 薬業科	商 … 商業科	家 … 家庭科
看 … 看護科	福 … 福祉科	総 … 総合学科		

II 新高校の概要

1 海洋高校と滑川高校による新高校

(1) 設置場所

新高校の設置場所については、現有施設の規模や設備の整備状況など多様な学科への対応等を考慮し、滑川高校の校舎等を活用し設置するものとする。

(2) 学校規模

前期計画の期間中における新高校の学校規模については、新たな学科構成、設置場所における現在の施設・設備の規模などの状況等を総合的に勘案し、1 学年 6 学級とする。

(3) 学科構成

学科構成については、「普通科」、「薬業科」、「商業科」、「海洋科」の 4 学科を設置し、各学科の学級数については、次のとおりとする。

普通科	薬業科	商業科	海洋科
3 学級 (120)	1 学級 (40)	1 学級 (40)	1 学級 (40)

()内は募集定員数
[以下同じ]

(4) 各学科の主な教育内容

各学科の主な教育内容は次のとおりとする。

学 科	主な教育内容
普 通 科	国語、地理歴史、公民、数学、理科、外国語など、幅広い分野の普通教科に関する教育を行う。 2 年次以降は、これまでの文系、理系のコース分けとは別に、「発展文系・発展理系(仮称)」を設け、生徒の興味・関心、進路に応じ、「発展古典・発展数学・発展英語(仮称)」など、学校が設定した重点科目の学習に取り組むことができるようにする。
薬 業 科	薬業に関する専門教育を主に行う。 具体的には、普通教科の学習に加え、製薬技術や薬品分析、バイオテクノロジーなど薬業に関する基礎的な知識や技術の習得を目指す。
商 業 科	商業に関する専門教育を主に行う。 具体的には、普通教科の学習に加え、流通や簿記会計、ビジネス情報などビジネスに関する基礎的な知識や技術の習得を目指す。
海 洋 科	水産に関する専門教育を主に行う。 具体的には、普通教科の学習に加え、沿岸・栽培漁業や水産加工、水産流通など水産・海洋に関する基礎的な知識や技術の習得を目指す。

(5) 魅力ある学校づくりのための仕組み

- ① 生徒の進路希望や興味・関心などに応じて、普通科の生徒が職業系の専門科目を学習したり、職業系専門学科の生徒が、他の職業系の専門科目や普通科の科目を学習したりできる仕組み（総合選択制）を導入し、生徒の多様な学習ニーズに対応できるようにする。
- ② コミュニケーション能力の伸長や、地域・国際理解を深めることを目指し、全生徒が共通に学ぶ科目「コミュニケーション入門(仮称)」を設定する。
- ③ 全生徒によるインターンシップや地域行事等への参加、地域関係者等の講師招聘など、地域と連携し、学校全体で取り組むことができる活動を充実する。

2 大沢野工業高校と富山工業高校による新高校

(1) 設置場所

新高校の設置場所については、現有施設の規模や設備の整備状況など多様な学科への対応や、生徒の通学の利便性等を考慮し、富山工業高校の校舎等を活用し設置するものとする。

(2) 学校規模

前期計画の期間中における新高校の学校規模については、新たな学科構成、設置場所における現在の施設・設備の規模などの状況、また、地区内における工業科の募集定員割合等を総合的に勘案し、1学年8学級とする。

(3) 学科構成

学科構成については、「機械系」、「電気系」、「建設系」の3領域を柱とし、機械系には「機械工学科」、「金属工学科」、「電子機械工学科」の3学科、電気系には「電気工学科」の1学科、建設系には「建築工学科」、「土木工学科」の2学科を設置し、各学科の学級数については、次のとおりとする。

機械系			電気系	建設系	
機 械 工学科	金 属 工学科	電子機械 工 学 科	電 気 工学科	建 築 工学科	土 木 工学科
2学級 (80)	1学級 (40)	1学級 (40)	2学級 (80)	1学級 (40)	1学級 (40)

(4) 各学科の主な教育内容

各学科の主な教育内容は次のとおりとする。

学 科		主な教育内容
機 械 系	機械工学科	工業における機械分野に関する専門教育を主に行う。 具体的には、普通教科の学習に加え、工作機械の操作や制御、機械設計、金属材料を加工するための溶接技術など機械に関する基礎的な知識や技術の習得を目指す。

学 科		主な教育内容
機 械 系	金属工学科	工業における金属分野に関する専門教育を主に行う。 具体的には、普通教科の学習に加え、金属材料の熱処理や材料試験法、ファインセラミクス等の新素材の材料技術など金属に関する基礎的な知識や技術の習得を目指す。
	電子機械工学科	工業における電子機械分野に関する専門教育を主に行う。 具体的には、普通教科の学習に加え、自動化された機械の操作や制御、ロボットや制御装置などの設計・製作など電子機械に関する基礎的な知識や技術の習得を目指す。
電 気 系	電気工学科	工業における電気分野に関する専門教育を主に行う。 具体的には、普通教科の学習に加え、電力の発送配電や、電子回路・計測制御、電気工事など電気に関する基礎的な知識や技術の習得を目指す。
建 設 系	建築工学科	工業における建築分野に関する専門教育を主に行う。 具体的には、普通教科の学習に加え、建築物の材料や、設計・施工、関連法規など建築に関する基礎的な知識や技術の習得を目指す。
	土木工学科	工業における土木分野に関する専門教育を主に行う。 具体的には、普通教科の学習に加え、道路、橋、上下水道などの設計・施工や、測量、環境保全など土木に関する基礎的な知識や技術の習得を目指す。

(5) 魅力ある学校づくりのための仕組み

- ① 全学科共通の履修科目「ものづくり学(仮称)」を設定し、ものづくりの基礎基本をはじめ、工業全般にわたる広い視野と応用力、ものづくりに対する総合的な見方・考え方を学ぶ。
- ② 各学科における専門的な知識や技術の習得を柱としながらも、系ごとに、複数の学科が共通に学ぶ専門科目を設定する。
- ③ 専門技術者の講師招聘や大学等と連携したものづくり人材育成などを推進する。

3 二上工業高校と高岡工芸高校による新高校

(1) 設置場所

新高校の設置場所については、現有施設の規模や設備の整備状況など多様な学科への対応や、生徒の通学の利便性等を考慮し、高岡工芸高校の校舎等を活用し設置するものとする。

(2) 学校規模

前期計画の期間中における新高校の学校規模については、新たな学科構成、設置場所における現在の施設・設備の規模などの状況、また、地区内における工業科の募集定員割合等を総合的に勘案し、1学年7学級とする。

(3) 学科構成

学科構成については、「機械系」、「電気系」、「建設系」、「工芸・デザイン系」の4領域を柱とし、機械系には「機械科」、「電子機械科」の2学科、電気系には「電気科」の1学科、建設系には「建築科」、「土木環境科」の2学科、工芸・デザイン系には「工芸科」、「デザイン・絵画科」の2学科を設置し、各学科の学級数については、次のとおりとする。

機械系		電気系	建設系		工芸・デザイン系	
機械科	電子機械科	電気科	建築科	土木環境科	工芸科	デザイン・絵画科
1学級 (40)	1学級 (40)	1学級 (40)	1学級 (40)	1学級 (40)	1学級 (30)	1学級 (40)

(4) 各学科の主な教育内容

各学科の主な教育内容は次のとおりとする。

学 科		主な教育内容
機 械 系	機械科	工業における機械分野に関する専門教育を主に行う。 具体的には、普通教科の学習に加え、機械工作や機械設計、生産システムなど機械に関する基礎的な知識や技術の習得を目指す。
	電子機械科	工業における電子機械分野に関する専門教育を主に行う。 具体的には、普通教科の学習に加え、工場の自動化に関する機械制御システムなど電子機械に関する基礎的な知識や技術の習得を目指す。
電 気 系	電気科	工業における電気分野に関する専門教育を主に行う。 具体的には、普通教科の学習に加え、電気設備の設置・保守や、配線・制御、通信技術など電気に関する基礎的な知識や技術の習得を目指す。
建 設 系	建築科	工業における建築分野に関する専門教育を主に行う。 具体的には、普通教科の学習に加え、建築物の設計・施工や、建築物に関連する設備と構造など建築に関する基礎的な知識や技術の習得を目指す。
	土木環境科	工業における土木環境分野に関する専門教育を主に行う。 具体的には、普通教科の学習に加え、道路や橋などの設計・施工、測量、環境工学など土木や環境に関する基礎的な知識や技術の習得を目指す。 2年次から、土木施工や土木構造設計などをより専門的に学ぶ「土木工学コース(仮称)」と、環境化学や化学材料などを学ぶ「環境化学コース(仮称)」のいずれかのコースを選択し学習する。

学 科		主な教育内容
工 芸 ・ デ ザ イ ン 系	工芸科	工業における工芸分野に関する専門教育を主に行う。 具体的には、普通教科の学習に加え、金属工芸・漆工芸・木材工芸の設計制作など工芸に関する基礎的な知識や技術の習得を目指す。
	デザイン ・ 絵画科	工業におけるデザイン・絵画分野に関する専門教育を主に行う。 具体的には、普通教科の学習に加え、視覚伝達デザイン、製品・環境デザイン、油彩などデザイン・絵画に関する基礎的な知識や技術の習得を目指す。

(5) 魅力ある学校づくりのための仕組み

- ① 全学科共通の履修科目「ものづくり学(仮称)」を設定し、ものづくりの基礎基本をはじめ、工業全般にわたる広い視野と応用力、ものづくりに対する総合的な見方・考え方を学ぶ。
- ② 各学科における専門的な知識や技術の習得を柱としながらも、系ごとに、複数の学科が共通に学ぶ専門科目を設定する。
- ③ 両校の特徴や伝統を生かした環境教育の導入や、工芸・デザイン教育を拡充する。
- ④ 専門技術者の講師招聘や大学等と連携したものづくり人材育成などを推進する。

4 有磯高校と氷見高校による新高校

(1) 設置場所

新高校の設置場所については、現有施設の規模や設備の整備状況など多様な学科への対応等を考慮し、氷見高校の校舎等を活用し設置するものとする。

(2) 学校規模

前期計画の期間中における新高校の学校規模については、新たな学科構成、設置場所における現在の施設・設備の規模などの状況等を総合的に勘案し、1 学年 7 学級とする。

(3) 学科構成

学科構成については、「普通科」、「農業科学科」、「海洋科学科」、「ビジネス科」、「生活福祉科」の 5 学科を設置し、各学科の学級数については、次のとおりとする。

普通科	農 業 科学科	海 洋 科学科	ビジネス科	生活福祉科
4 学級 (160)	1 学級 (40)	1 学級 (40)	1 学級 (40)	1 学級 (40)

(4) 各学科の主な教育内容

各学科の主な教育内容は次のとおりとする。

学 科	主な教育内容
普 通 科	<p>国語、地理歴史、公民、数学、理科、外国語など、幅広い分野の普通教科に関する教育を行う。</p> <p>2年次以降は、これまでの文系、理系のコース分けとは別に、「文理探究コース(仮称)」を設け、生徒の興味・関心、進路に応じ、国語・地歴公民・英語を主とする「人間探究(仮称)」、数学・理科を主とする「数理探究(仮称)」など、学校が設定した重点科目の学習に取り組むことができるようにする。</p>
農業科学科	<p>農業に関する専門教育を主に行う。</p> <p>具体的には、普通教科の学習に加え、農産物の生産・加工・流通・安全、環境保全など農業に関する基礎的な知識や技術の習得を目指す。</p>
海洋科学科	<p>水産に関する専門教育を主に行う。</p> <p>具体的には、普通教科の学習に加え、海洋や水産資源の生産・加工・流通・安全、環境保全など水産・海洋に関する基礎的な知識や技術の習得を目指す。</p>
ビジネス科	<p>商業に関する専門教育を主に行う。</p> <p>具体的には、普通教科の学習に加え、マーケティングや簿記会計、ビジネス情報などビジネスに関する基礎的な知識や技術の習得を目指す。</p>
生活福祉科	<p>生活福祉に関する専門教育を主に行う。</p> <p>具体的には、普通教科の学習に加え、福祉や保育、衣食住など生活福祉に関する基礎的な知識や技術の習得を目指す。</p>

(5) 魅力ある学校づくりのための仕組み

- ① 生徒の進路希望や興味・関心などに応じて、普通科の生徒が職業系の専門科目を学習したり、職業系専門学科の生徒が、他の職業系の専門科目や普通科の科目を学習したりできる仕組み（総合選択制）を導入し、生徒の多様な学習ニーズに対応できるようにする。
- ② 地域の自然や産業などについて、全生徒が共通に学ぶ科目「氷見学(仮称)」を設定する。
- ③ 職業系専門学科におけるインターンシップの実施、地域の専門家等の講師招聘など、学校外の教育力を活用した教育を充実する。
- ④ 職業意識の向上や社会性の育成を図るため、職業系専門学科の生徒が共通に学ぶ「キャリアガイダンス(仮称)」の時間を設定する。

5 井波高校と福野高校による新高校

(1) 設置場所

新高校の設置場所については、現有施設の規模や設備の整備状況など多様な学科への対応等を考慮し、福野高校の校舎等を活用し設置するものとする。

(2) 学校規模

前期計画の期間中における新高校の学校規模については、新たな学科構成、設置場所における現在の施設・設備の規模などの状況等を総合的に勘案し、1 学年 7 学級とする。

(3) 学科構成

学科構成については、「普通科」、「農業環境科」、「福祉科」の 3 学科を設置し、各学科の学級数については、次のとおりとする。

普通科	農業環境科	福祉科
5 学級 (200)	1 学級 (30)	1 学級 (40)

(4) 各学科の主な教育内容

各学科の主な教育内容は次のとおりとする。

学 科	主な教育内容
普 通 科	国語、地理歴史、公民、数学、理科、外国語など、幅広い分野の普通教科に関する教育を行う。 2 年次以降は、これまでの文系、理系のコース分けとは別に、「探究コース(仮称)」を設け、生徒の興味・関心、進路に応じ、「国語探究・数学探究・英語探究(仮称)」など、学校が設定した重点科目の学習に取り組むことができるようにする。
農業環境科	農業に関する専門教育を主に行う。 具体的には、普通教科の学習に加え、野菜・草花、造園土木など農業に関する基礎的な知識や技術の習得を目指す。
福 祉 科	福祉に関する専門教育を主に行う。 具体的には、普通教科の学習に加え、福祉に関する基礎的な知識や技術の習得を目指す。 2 年次から、福祉の基礎を幅広く学ぶ「教養福祉コース(仮称)」と、介護のより高い専門知識と技術を身に付ける「介護福祉コース(仮称)」のいずれかのコースを選択し学習する。

(5) 魅力ある学校づくりのための仕組み

- ① 生徒の進路希望や興味・関心などに応じて、普通科の生徒が職業系の専門科目を学習したり、職業系専門学科の生徒が、他の職業系の専門科目や普通科の科目を学習したりできる仕組み（総合選択制）を導入し、生徒の多様な学習ニーズに対応できるようにする。
- ② 全生徒が、地域の自然や文化、産業等への理解を深め、地域における課題のより良い解決方法について、自ら考え、提案する活動に取り組む。
- ③ 「みどりの学校づくり」や「福祉の学校づくり」を柱として、全生徒が、緑化活動や福祉施設でのボランティア活動などに取り組む活動を充実する。

<参考資料②> 再編統合後の新高校の概要

対象校	設置場所	開設年度	設置学科	学級数 (定員数)	総学級数 (総定員数)
海洋 滑川	滑川	H22 年度	普通科 薬業科 商業科 海洋科	3学級 (120) 1学級 (40) 1学級 (40) 1学級 (40)	6学級 (240)
大沢野工業 富山工業 (富山西)	富山工業	H22 年度	[機械系] 機械工学科 金属工学科 電子機械工学科 [電気系] 電気工学科 [建設系] 建築工学科 土木工学科	2学級 (80) 1学級 (40) 1学級 (40) 2学級 (80) 1学級 (40) 1学級 (40)	8学級 (320)
二上工業 高岡工芸	高岡工芸	H22 年度	[機械系] 機械科 電子機械科 [電気系] 電気科 [建設系] 建築科 土木環境科 [工芸・デザイン系] 工芸科 デザイン・絵画科	1学級 (40) 1学級 (40) 1学級 (40) 1学級 (40) 1学級 (40) 1学級 (30) 1学級 (40)	7学級 (270)
有磯 氷見	氷見	H22 年度	普通科 農業科学科 海洋科学科 ビジネス科 生活福祉科	4学級 (160) 1学級 (40) 1学級 (40) 1学級 (40)	7学級 (280)
井波 福野	福野	H22 年度	普通科 農業環境科 福祉科	5学級 (200) 1学級 (30) 1学級 (40)	7学級 (270)

〈参考資料③〉 これまでの検討経緯

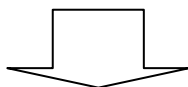
県立高校将来構想策定委員会 計 7 回開催 (H17.7～H18.3)

[検討事項]

- 1 生徒の多様な個性や学習ニーズに対応した県立高校の教育の充実に関すること
- 2 生徒減少期における県立高校の望ましい規模や配置など生徒の学習環境の整備に関すること

(パブリックコメント [H18.2.10～3.10] 52人 331件)

県立高校将来構想の基本的な方向について (平成 18 年 3 月 29 日)



県立学校教育振興計画策定委員会 計 6 回開催 (H18.5～H19.12)

[検討事項]

- 1 生徒の多様な個性や学習ニーズに対応した県立高校の教育の充実に関すること
- 2 生徒減少期における県立高校の望ましい規模や配置など生徒の学習環境の整備に関すること
- 3 県立特殊教育諸学校と県立高校の連携など県立学校における障害のある児童生徒の学習環境の整備に関すること

県立高校の教育形態等検討小委員会 (計 6 回開催)
日常的な教育活動、学校の形態・仕組みの革新、県立高校の規模と配置等

学科構成等検討小委員会 (計 5 回開催)
各学科の定員割合、各学科の在り方、配置等

特別支援学校等検討小委員会 (計 4 回開催)
特別支援学校の再編と配置等

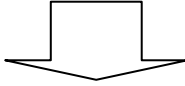
地域小委員会 (計 3 回開催)
地域における県立学校の在り方

(パブリックコメント [H19.11.10～12.9] 67人 206件)

(地域説明会 [H19.11]
・新川地区(149名) ・砺波地区(154名)
・高岡地区(183名) ・富山地区(160名)
○地域の PTA や中学校長会等において 15 回開催
[H20.1～2])

県立学校教育振興計画 [基本計画] (平成 19 年 12 月)





県立学校教育振興計画推進会議

計 3 回開催 (H20. 1～H20. 2)

[検討事項]

- 1 県立高校の教育の充実に関すること
- 2 県立高校の規模・配置に関すること
- 3 県立特別支援学校の配置等に関すること
- 4 その他、県立学校の教育改革の推進に関すること



富山県教育委員会 (H20. 3. 31)

「前期計画における再編統合の基本的な枠組みについて」



〔 5 件の再編統合後の新高校について、県教委内に設置したプロジェクトチームにおいて検討 〔～H20. 12〕 〕

富山県教育委員会 (H20. 7. 7)

「前期計画における 5 件の再編統合に係る検討状況について」



〔 第 1 回産業界との意見交換会 [H20. 7. 25]
 第 2 回産業界との意見交換会 [H20. 8. 1] 〕

富山県教育委員会 (H20. 8. 4)

「前期計画における再編統合後の新高校の骨格（素案）について」



〔 意見募集 [H20. 8. 11～9. 30] 60 人 120 件 〕

〔 地域説明会
○地域の PTA や中学校長会等において 9 回開催
[H20. 8～11] 〕

前期計画における再編統合の「実施計画」 (平成 20 年 12 月 25 日)